# れんさい 監査の四季

第16回

鯖江市代表監査委員
川中清司

## 知識とくつろぎ
### 文化の館(2)

今、梅雨に濡れながら青、紫と輝く紫陽花が心を潤わせ、文化の館には穏やかな安らぎが広がっています。

天井が高くソフトな間接照明、書架は開放型で見やすく本屋のように自由に選べます。優れた美術の蔵書も多く、「世界美術大全集」「ルーブルとパリの美術」や「浮世絵大系」のほか、漆器の産地らしく「日本の漆芸」なども見られます。

**文化の館の年間総予算**は1億4千万円で、職員は24人（うち司書13人）が働いています。

漆器、浮世絵、ルーブル美術の蔵書

「こんな本はありませんか」と、本の相談が多い。仕事や趣味、健康や美容の悩みもあれば、勉強に取り組む学生や、孫のために良い本を探すおじいちゃんなどいろいろです。

著者の名前や話しの筋、キーワードなどを頼りにパソコンで検索します。訪れてきた人の力になりたい、そんな職員の熱意が伝わってきます。

**ボランティア**さんの支えも大きく、年間延べ500人もの協力を得ています。緑のエプロンを着て、本拭き、配架、回収、イベントの受付、子どもの集いでの「読み聞かせ」も好評です。

市民の善意の寄贈本は年間6千冊を超え、その中にファッションタウン文庫も設けられています。

会長の川畑紀義さんは、「暗い日々こそ、私たちの心の支えに図書館がある」と**友の会を組織**、15年を経た今、会員は200人に広がりました。

毎月の会報には映像シアターや絵画展、読書会の案内やボランティア計画をも載せ、館を支える温もりが伝わってきます。

文化の館は、市民みんなで支える**積善の館**です。